


平成20年3月期

中間決算説明資料

平成19年11月29日

 川重冷熱工業株式会社

平成20年3月期 中間決算概要

平成20年3月期中間決算の総括



売上高は、空調・ボイラ共に受注の出足が鈍かったことと水管ボイラ等の大口案件が少なかったこと等が影響し、前年同期比減となりました。

利益面では、コストならびに諸費用の低減に努めましたが、売上高減少の影響が大きく、営業利益、経常利益、中間純利益共に前年同期を下回る結果となりました。

平成20年3月期中間貸借対照表



資 産

金額単位:百万円

	当中間	前中間	前年同期比	備 考
流動資産	8,932	10,146	88.0%	
現金及び預金	13	19	68.4%	
受取手形・売掛金	6,477	7,535	86.0%	売上高の前年同期比減による。
棚卸資産	2,029	2,278	89.1%	仕掛品残高の前年同期比減による。
繰延税金資産	310	292	106.2%	
その他流動資産	100	20	500.0%	貸倒引当金の減による。
固定資産	4,272	4,311	99.1%	
有形・無形固定資産	2,108	2,172	97.1%	
長期繰延税金資産	1,282	1,273	100.7%	
投資その他の資産	881	865	101.8%	
資 産 合 計	13,205	14,458	91.3%	

平成20年3月期中間貸借対照表



負債

金額単位:百万円

	当中間	前中間	前年同期比	備考
流動負債	5,886	7,159	82.2%	
支払手形・買掛金	4,187	4,739	88.4%	
短期借入金	550	963	57.1%	売上債権の減少に伴う「営業活動によるC/F」の純増により借入金を返済したために減少。
未払法人税	70	235	29.8%	
未払消費税	48	64	75.0%	
前受金	107	139	77.0%	
賞与引当金	361	338	106.8%	
製品保証引当金	121	103	117.5%	
受注工事損失引当金	17	-	-	
その他の流動負債	422	576	73.3%	
固定負債	3,151	3,117	101.1%	
退職給付引当金	3,000	2,980	100.7%	
その他固定負債	151	137	110.2%	

平成20年3月期中間貸借対照表



純資産

金額単位:百万円

	当中間	前中間	前年同期比	備 考
株主資本	4,142	4,155	99.7%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
資本準備金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,466	1,476	99.3%	
利益準備金	168	168	100.0%	
その他利益剰余金	1,297	1,307	99.2%	
別途積立金	1,000	800	125.0%	平成19年6月の定時株主総会における剰余金処分による増加。
繰越利益剰余金	297	507	58.6%	平成19年6月の定時株主総会における剰余金処分による減少。
自己株式	12	9	133.3%	
評価・換算差額等	24	25	96.0%	
その他株式等評価差額金	24	25	96.0%	
純資産合計	4,167	4,180	99.7%	
負債及び純資産合計	13,205	14,458	91.3%	

平成20年3月期中間損益計算書

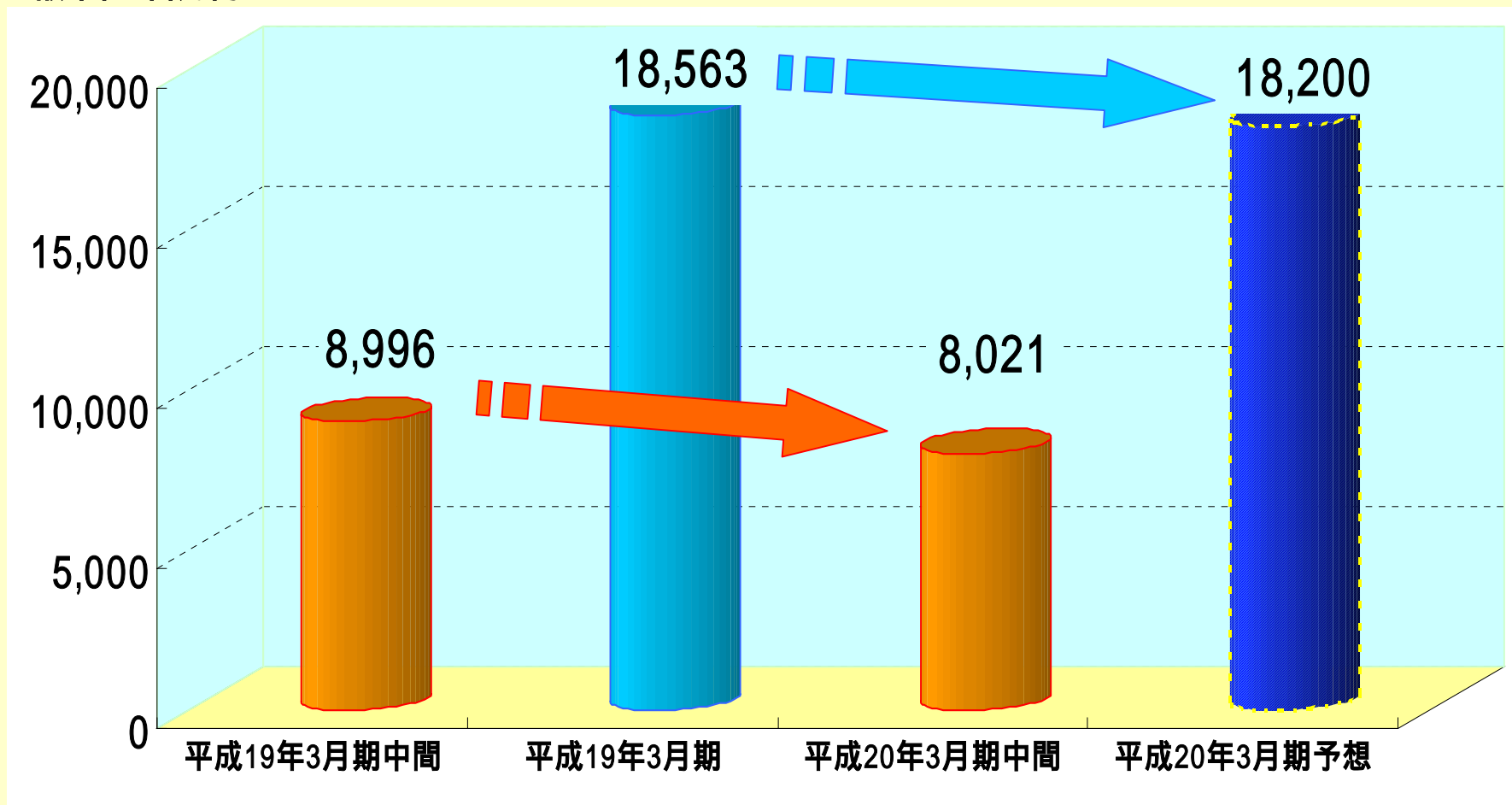


金額単位:百万円

	当中間	前中間	前年同期比	備 考
売上高	8,021	8,996	89.2%	中間決算の総括に記載の通り。
売上総利益	2,099	2,427	86.5%	
販売費及び一般管理費	2,022	1,932	104.7%	
営業利益	76	495	15.4%	中間決算の総括に記載の通り。
営業外収益	8	16	50.0%	
営業外費用	13	58	22.4%	棚卸処分費用の減少による。
経常利益	71	452	15.7%	中間決算の総括に記載の通り。
特別損失	-	10	-	
税引前中間純利益	71	441	16.1%	
法人税、住民税及び事業税	50	206	24.3%	
中間純利益	21	235	8.9%	中間決算の総括に記載の通り。

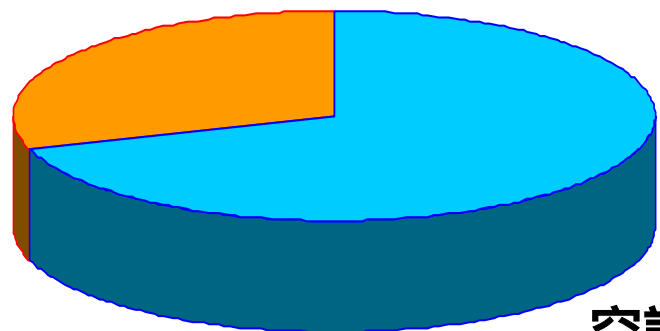
売上高の推移

金額単位：百万円



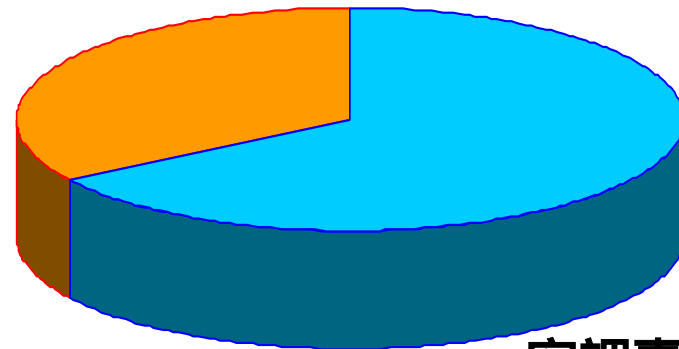
売上高構成比の比較

ボイラ事業
34.3%



空調事業
65.7%

ボイラ事業
33.0%



空調事業
67.0%

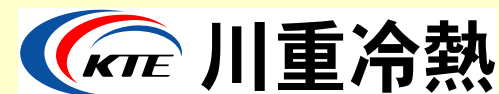
平成19年3月期中間決算

平成20年3月期中間決算

要因分析

空調事業、ボイラ事業の機器、改修改造工事・メンテナンス共に減少したため構成比に大きな変動はありませんでした。

事業区分別分析



空調事業

機器の売上は、機器本体の受注残高が少なかったことと受注の出足が鈍かったことにより減少いたしました。

改修改造工事・メンテナンスの減少は、改修改造工事の減少に伴うものであります。

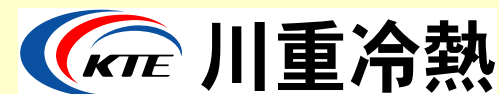
ボイラ事業

機器の売上は、機器本体で水管ボイラ等の大口案件が減少したことと受注の出足が鈍かったことにより減少いたしました。

改修改造工事・メンテナンスの減少は、改修改造工事の減少に伴うものであります。

平成20年3月期 業績予想

平成20年3月期の業績予想

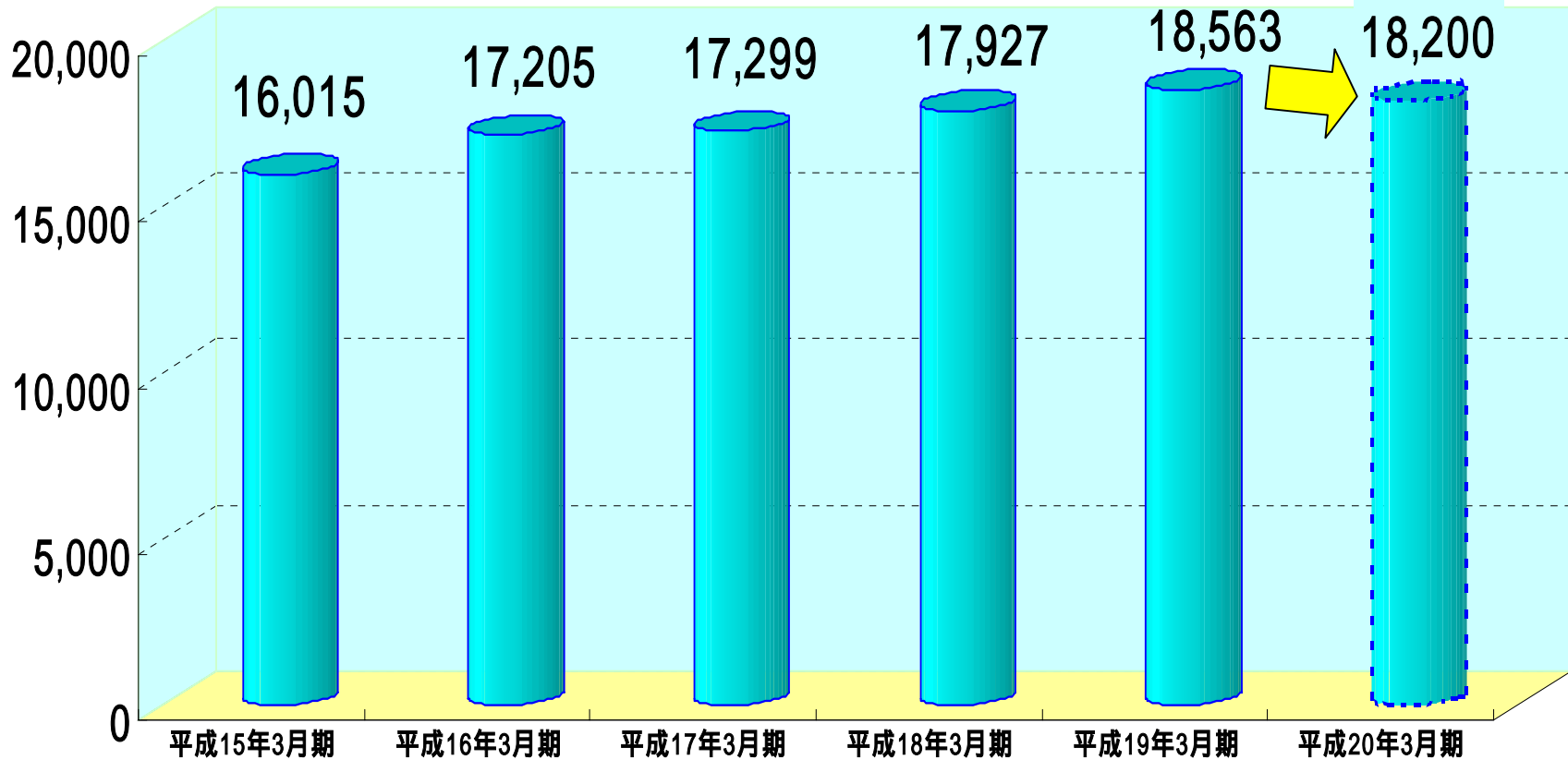


金額単位:百万円

	今期予想	前 期	前 期 比	備 考
売上高	18,200	18,563	98.0%	
空調事業	11,750	12,037	97.6%	
ボイラ事業	6,250	6,526	95.8%	
営業利益	530	667	79.5%	
経常利益	490	586	83.6%	
当期純利益	240	304	78.9%	

売上高の推移(予想)

金額単位: 百万円



空調事業

吸収冷温水機の市場はリプレース需要が中心になりつつあり、これに対して部分負荷効率を向上させた「シグマエース」と省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞を受賞した「三重効用型機」を中心にリプレース需要を確保いたします。

電話回線を使ったメンテナンスシステムの「テレメンテ」の普及およびサービスメニューの充実を図り、改修改造工事・メンテナンスの拡大を図ります。

ボイラ事業

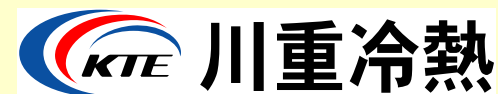
大型貫流ボイラ「イフリート」の制御性の特長、省エネルギー性を活かした提案営業を推進し、受注拡大に注力いたします。
一方で、今年度か開設したイフリートショールームを活用したPR活動を推進いたします。

機器本体に付帯する周辺設備への対応力を高めて受注の拡大に努めてまいります。



参 考

当社の経営方針



当社の経営は、「エクセレントカンパニーの構築」をめざし、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに、従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを基本に運営しております。

当社の関連する空調業界では、市場競争の激化により販売価格が低下傾向にあります。業界全体の需要につきましては軒減傾向にありますが、リプレース需要を中心に今後回復してくると予想されます。省エネルギーならびに吸収式の特長を最大限に活かした余剰エネルギーを有効利用する機器の開発は今後も進展していくものと思われれます。また、吸収式は、電気式のターボ冷凍機と違い、地球温暖化係数の高いフロンを一切使わない、ノンフロン空調であること、高効率機の開発も進んでいることも今後の需要回復の一因となると思われれます。

ボイラ業界の総需要は、設備投資の回復に伴い増加してくると予測されます。その市場構造は貫流ボイラを中心としたものには変化はなく、また、特殊仕様の水管ボイラも安定した需要が見込めるものと思われれます。

本資料に関する問合せ先

 川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。